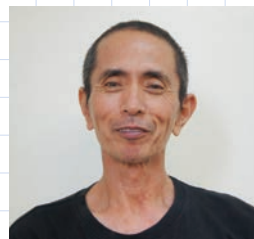


有限会社高江木工

バフ加工不要で短納期量産化を可能にするアクリル用NC設備導入



代表取締役 高江 尊

Background

経緯

当社は県内だけでなく県外からの発注により、木工の加工、切削などを主な業務としている。過去に病院の家具を受注した経緯から、病院で多く使われているアクリル板の切削加工の要望があった。今後の展開や将来性を考え、既存の受注業務に大きな負担をかけることなく、職人の手間を省きながら作業を行えるパソコンの数値制御によるアクリル用NC設備を導入し、アクリル板の加工に挑戦しようと考えた。

Result

成果

実験や試作を繰り返すことで、アクリルの加工技術向上と時間短縮を両立することができた。技術面では検査をクリアできるレベルに達していると思うが、ネタ違いに多い受注量にどう対応するかが課題。今回、ものづくり補助金に応募したことで、中央会が行う成果発表会の異業種情報交換会に参加でき、非常に大きな刺激や学びがあった。これが一番大きな成果だったと感じている。

Content

事業内容

東日本大震災以降、全国的にガラスを使った窓や什器などが見直され、アクリル加工の受注が増えているという。今後もアクリルの需要が高まると見込まれることから、当社でも導入を決意。従来のアクリル加工では、切削から研磨まで相当な時間と人件費がかかってしまうが、NCの切削加工により、リードタイムや職人による手作業の短縮を目指した。仕上げの小口取り、磨きなどの仕上げ作業は従来通り職人の手作業となる。



アクリル用NC設備

Outlook

今後の展望

県内の動向を調べてみると、アクリル切削加工は小ロットでの受注はなく、県内の総合病院や大型商業施設などの開設に伴うアクリル加工は7千枚、1万枚といった非常に大口の発注となる。しかし、県内ではその受注をこなすことができず、ほぼすべてが県外へと流出。しかも、輸送にはコストがかかり、船での輸送は傷が付いた場合、すべてが返品となるためリスクも高い。これらのアクリル切削加工を県内で受注できるような技術力の向上、システムの構築を目指したい。ものづくりには100%の満足はない。機器の導入と職人の技を融合させ、常に質の高いものを目指したい。



アクリル切削加工